



令和8年9月3日

「放射線災害医療セミナー」開催

西日本の医系学生約 50 人が参加
福島原発事故の教訓を次世代へ継承

情報提供

広島大学放射線災害医療総合支援センター（※1）と広島大学原爆放射線医科学研究所放射線災害医療開発研究分野は、2026年9月5日、災害医療に関心を持つ西日本の医系学生を対象に「放射線災害医療セミナー」を広島大学霞キャンパス（広島市南区）で開催します。

本セミナーには、日本災害医学会学生部会である DMAS（Disaster Medical Assistance Student）（※2）に所属する学生を中心に、関西、中国、四国、九州から約 50 人の医系学生が参加します。

なお、広島大学では 2026 年 1 月 10 日に、中国地方の DMAS 所属学生 5 人を対象とした放射線災害医療研修を初めて実施していますが、西日本の DMAS 所属学生等約 50 人を対象に、汚染傷病者対応訓練まで行う研修は今回が初めてです。

当日は、放射線災害医療に関する講義のほか、参加学生全員が防護衣を着用し、GM サーベイメータによる放射線測定や、被ばく・放射性物質による汚染を伴う傷病者への対応などを実践的に学びます。これほど多くの医系学生が一堂に会し、防護衣の着脱から患者対応までを体験する放射線災害医療訓練は全国的にも珍しい取り組みです。

東京電力福島第一原子力発電所事故から 15 年が経過し、当時の経験や教訓を次世代へ継承することが重要な課題となっています。本セミナーは、医療を学ぶ段階から放射線災害医療に触れ、「放射線を正しく理解し、正しく恐れ、適切に行動できる」医療人材の育成を目指すものです。

被爆地・広島に所在する大学として、広島大学は放射線影響研究や放射線災害医療分野で培ってきた知見を次世代へ継承し、将来の原子力災害や放射線事故に備える医療人材の育成に取り組んでいます。

開催概要

名 称：放射線災害医療セミナー

日 時：2026 年 9 月 5 日（土）10:00～17:30

場 所：広島大学霞キャンパス 放射線災害医療研修棟 4 階（広島市南区霞 1-2-3）

参加者：DMAS（日本災害医学会学生部会）に所属する学生を中心とした西日本の医系学生約 50 人

主 催：広島大学原爆放射線医科学研究所 放射線災害医療開発研究分野

共 催：広島大学放射線災害医療総合支援センター
西日本 DMAS

取材の見どころ

- ・ 西日本各地から約 50 人の医系学生が参加
- ・ 参加者全員が防護衣を着用した実践演習
- ・ 放射線測定機器（GM サーベイメータ）の操作体験
- ・ 汚染傷病者対応訓練の実施
- ・ 福島第一原発事故の教訓を次世代へ継承する人材育成の現場
- ・ 被爆地・広島から発信する放射線災害医療教育

（※1）広島大学放射線災害医療総合支援センター

原子力災害や放射線事故に備え、被ばく医療をはじめとする原子力災害医療の支援や専門人材の育成、関係機関とのネットワーク構築を担う広島大学の拠点。

(※2) DMAS (Disaster Medical Assistance Student)

日本災害医学会学生部会。災害医療に関する知識や技能を学び、災害時に医療活動などを支援できる人材を目指す学生によるチーム。

【問い合わせ先】

広島大学原爆放射線医科学研究所 放射線災害医療研究部門

放射線災害医療開発研究分野 廣橋 伸之 教授

TEL 082-257-5839 FAX 082-256-7105

E-mail : hirohasi@hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 3 枚

西日本DMAS共催

放射線災害医療セミナー



日時：2026年9月5日(土) 10:00～



場所：広島大学霞キャンパス
放射線災害医療研修棟4階

広島大学 原爆放射線医科学研究所
放射線災害医療開発研究分野
教授 廣橋伸之 先生

共催：広島大学放射線災害医療総合支援センター

対象

西日本在住の
DMAS会員

プログラム(予定)

- | | |
|-------|------------------------|
| 10:00 | オープニング |
| 10:15 | アイスブレイク |
| 10:30 | DIG |
| 11:30 | 昼食・放射線災害医療の動画視聴 |
| 12:30 | 放射線災害医療概論 |
| 13:30 | GMサーベイメータの取り扱い・防護衣着脱実習 |
| 15:00 | 被ばく汚染傷病者対応演習 |
| 17:00 | クロージング・写真撮影 |
| 17:30 | 終了 |

